

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 5 年 7 月 調査結果 - -

(平成 1 5 年 8 月 1 日)

調査期間：平成 1 5 年 7 月 1 8 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 2 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 2 製造業 6 3 1 卸売業 2 3 0
小売業 7 3 4 サービス業 5 9 5

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成15年7月調査結果のポイント】

業況D Iのマイナス幅は2カ月ぶりに縮小するも、景況は依然、停滞感が続く

7月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（49.1）よりマイナス幅が1.5ポイント縮小して47.6となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

業種別の業況D Iは、卸売、小売でマイナス幅が拡大したが、建設、製造、サービスで縮小したため、全産業合計の業況D Iもマイナス幅が縮小した。しかし、依然D I値の水準は低く、中小企業の足元では、景気の見通しの不透明さと不況の常態化から、停滞感が漂っている。景気の先行きについては、公共事業の縮小や、天候不順の影響、消費低迷とデフレ不況に伴う競争激化、単価下落などを訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「公共工事は受注悪化傾向だが、住宅建設は増加すると予想している」（一般工事）といった声があるものの、「大手企業の設備投資が少なく、小口工事も値引き競争になりマージンが極端に少なくなっている」（電気工事）、「設備投資、新規住宅の動きが悪く、リフォームが多い」（建築工事）と、引き続き厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。

【製造業】では、「SARSの制圧宣言により、中国ビジネスが再び活発化し、繊維機械や工作機械等が依然として好調」（金属製品）との声がある一方、「受注数量は増えているが、コストダウンの影響により利益率はかなり悪化している」（金物類）、「景気底打ちの声も聞かれるが、売上、採算とも前年に比べ悪化しており、業界全体で海外流出、人員整理が進む中、具体的な改善策が打ち出せない状況」（金属加工機械）といった声が寄せられている。

【卸売業】では、「新車店舗、中古車展示場への店頭来場客数は前年比105%で、ボーナスが伸び悩んでいる割には個人消費は手堅い動きが感じられる」（自動車）との声はあるものの、「百貨店、量販店、専門店の全ての分野で売上減少し、業況は低迷している」（家具・建具等）と、厳しい状況を訴える声や、「この梅雨の低気温で、野菜の品質が悪く価格、消費とも低迷気味で昨年実績を下回って推移」（農畜産水産物）など、天候不順の影響を訴えるコメントも寄せられている。

【小売業】では、「バーゲンの売上ピークが2～3日と短く、複数購買が少なく単品で終わっている」（商店街）、「中元ギフトは、法人関係で予想以上に苦戦している」（百貨店）、「ボーナス支給の減少などが消費者心理を冷やしている」（百貨店）といった、消費の低迷を訴える声や、「梅雨が長引き低気温のため、夏物衣料品・家電関連が不振」（百貨店）といった声が多く寄せられている。

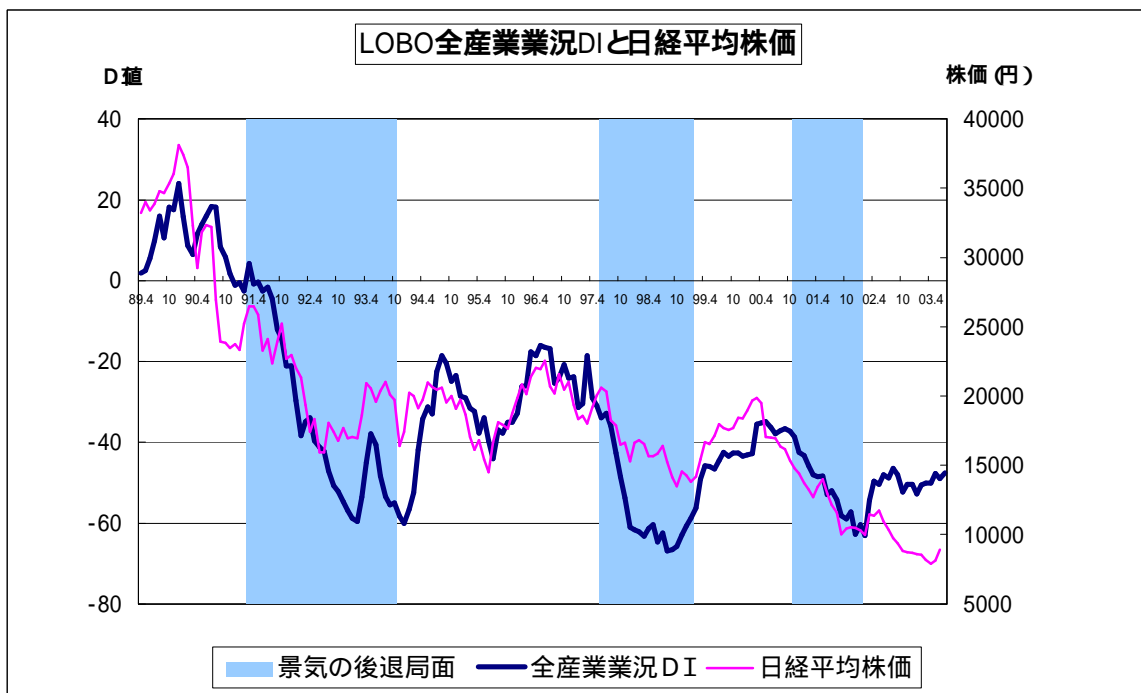
【サービス業】では、「食堂部門、宿泊部門は客数が増加したが、宴会部門は減少」（旅館）、「可処分所得が減少しているため、消費者も余暇の過ごし方にシビアになっており、前年に比べ客足が伸びない」（喫茶店）と、消費の低迷を訴える声や、「一般貨物の荷動きは低調で、荷主からの運賃削減要請も強く、経営悪化を訴える事業者が多い」（運輸）といった声や、「冷夏の影響からか観光客は一向に増加せず、期待感の高い時期だけにショックが大きい」（旅館）と、天候の影響を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は、卸売で前月水準より拡大したが、他の 4 業種で縮小したため、全産業合計の売上 D I は 2 . 2 ポイント縮小して 4 2 . 5 となり、2 カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は、卸売で前月水準より拡大したが、他の 4 業種で縮小したため、全産業合計の採算 D I は 1 . 1 ポイント縮小して 4 1 . 9 となり、2 カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう 3 カ月 (8 月 ~ 1 0 月) の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース) が 3 7 . 7 と、昨年同時期の先行き見通し (3 8 . 2) と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の縮小や、天候不順、消費低迷と競争激化、単価下落などに関するコメントが目立っている。



【業況についての判断】

7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（49.1）よりマイナス幅が1.5ポイント縮小して47.6となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

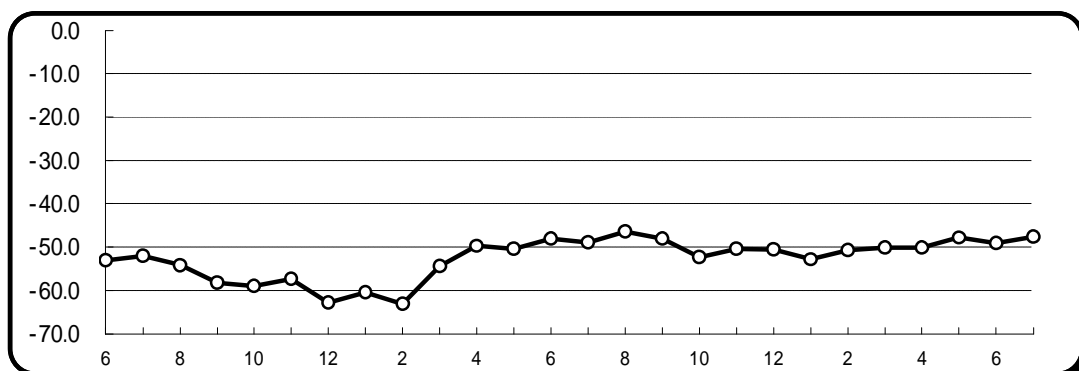
向こう3カ月（8月～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が37.7と、昨年同時期の先行き見通し（38.2）と比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	15年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	50.7	50.1	50.1	47.8	49.1	47.6	37.7 (38.2)
建設	64.7	64.8	64.7	63.0	61.7	59.0	52.9 (50.5)
製造	46.7	43.9	43.6	40.7	44.3	37.3	32.1 (34.7)
卸売	48.2	54.4	47.9	46.8	44.6	47.0	33.9 (36.4)
小売	48.0	49.2	48.6	46.4	46.4	50.0	36.8 (36.6)
サービス	50.2	46.2	50.0	47.4	51.4	48.9	36.2 (36.6)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年7月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

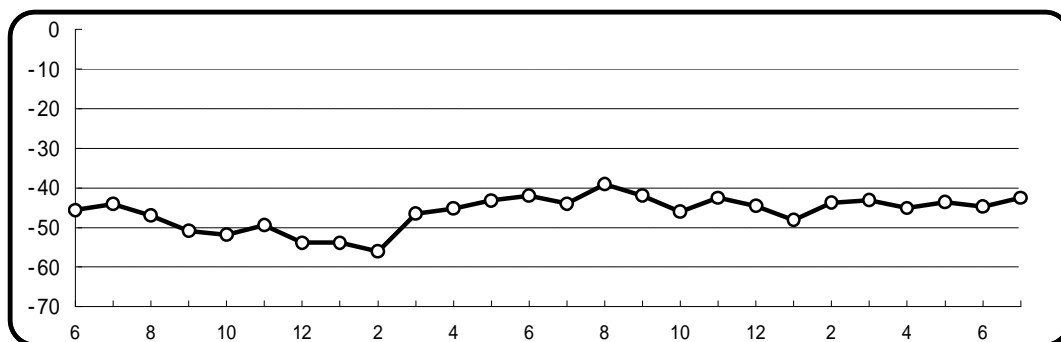
売上面では、D I 値のマイナス幅は、卸売で前月水準より拡大したが、他の4業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は2.2ポイント縮小して42.5となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が32.0と、昨年同時期の先行き見通し(31.7)に比べて悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	43.7	43.1	45.1	43.6	44.7	42.5	32.0 (31.7)
建設	57.1	59.0	62.9	58.4	59.2	52.0	45.1 (41.8)
製造	36.8	33.3	34.4	33.3	36.8	31.0	25.2 (30.1)
卸売	41.8	45.9	46.7	47.7	39.2	45.2	31.5 (26.0)
小売	40.8	44.9	46.6	43.3	46.9	46.7	33.9 (30.5)
サービス	46.8	39.4	42.7	43.5	43.5	42.8	28.6 (30.3)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

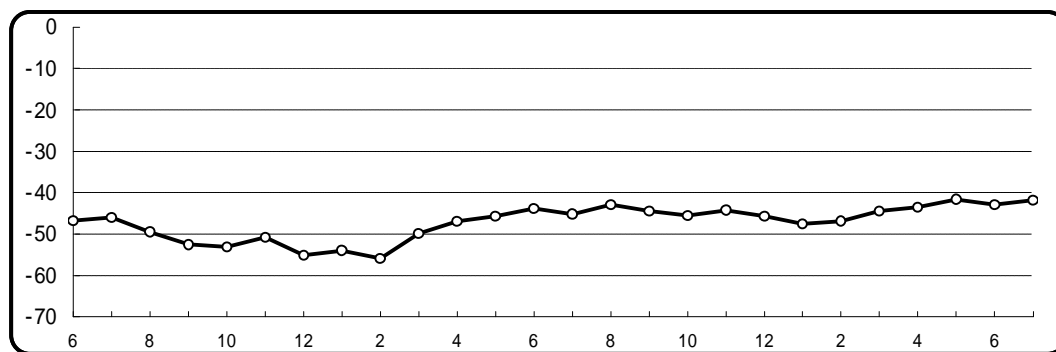
採算面では、D I 値のマイナス幅は、卸売で前月水準より拡大したが、他の4業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は1.1ポイント縮小して41.9となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が34.1で、昨年同時期の先行き見通し(34.8)と比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	46.9	44.5	43.5	41.6	43.0	41.9	34.1 (34.8)
建設	63.4	61.9	58.3	60.1	62.2	60.1	53.2 (45.2)
製造	46.3	42.5	39.5	37.0	38.6	36.9	30.6 (33.8)
卸売	40.0	45.0	39.6	40.7	39.8	42.8	32.7 (27.9)
小売	39.7	38.5	41.3	36.2	36.6	34.8	25.8 (34.1)
サービス	48.8	42.2	42.2	41.3	44.4	43.8	35.8 (32.3)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	38.0	37.6	36.2	32.9	32.9	31.5	27.6 (29.8)
建設	54.0	55.2	50.9	46.8	48.9	46.6	46.4 (39.9)
製造	39.6	36.6	35.5	33.8	33.7	27.6	26.1 (34.2)
卸売	31.9	31.5	34.1	28.9	25.7	28.9	22.6 (26.1)
小売	33.1	31.2	27.9	26.2	26.2	26.5	20.0 (24.9)
サービス	32.0	34.9	36.8	30.8	30.4	31.3	27.6 (25.0)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】卸売、小売、サービスで悪化超感が強まったが、建設、製造で弱まり、全産業合計でも2カ月ぶりに悪化超感が若干弱まる。

【先行き見通しD I】建設、サービスを除く3業種で昨年同時期に比べ悪化超感が弱まり、全産業合計でも悪化超感が弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	2.9	7.4	5.5	4.3	3.6	3.2	4.3 (2.5)
建設	0.7	2.6	2.6	2.5	0.4	1.8	2.9 (0.4)
製造	16.2	18.5	16.5	17.7	15.4	14.7	8.8 (9.7)
卸売	0.0	11.9	1.2	5.8	0.0	1.2	7.9 (2.6)
小売	7.4	1.6	1.2	6.5	4.0	2.0	0.6 (2.5)
サービス	5.0	8.2	5.4	3.2	3.6	1.8	4.9 (3.8)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】小売を除く4業種で上昇超感が弱まり、全産業合計では上昇超感が4カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】製造を除く4業種で昨年同時期に比べ上昇超感が強まり、全産業合計でも上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	15年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	16.0	16.7	14.8	14.4	14.1	14.6	13.6 (14.4)
建設	35.3	36.4	33.2	34.3	34.3	33.5	26.6 (26.3)
製造	20.7	18.0	19.4	19.6	17.1	18.6	18.4 (21.2)
卸売	16.5	21.9	13.6	13.5	14.5	15.1	14.9 (14.6)
小売	6.7	6.6	5.1	3.6	5.2	6.1	7.3 (7.1)
サービス	9.5	12.2	9.6	8.9	8.2	7.7	6.4 (6.8)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】建設、サービスを除く 3 業種で過剰超感が強まり、全産業合計でも 4 カ月ぶりに過剰超感が若干強まる。

【先行き見通し D I】建設、卸売、小売で昨年同時期に比べ過剰超感が強まったが、製造、サービスで過剰超感が弱まったため、全産業合計でも過剰超感が若干弱まる見通し。

【平成15年7月の景気キーワード】

不況の常態化

「株価の上昇、アメリカ経済の回復に期待」(一宮・繊維品卸)といった声はあるものの、依然として、不況の常態化と先行き不透明感を訴える声が多く、「若干の動きはあるが、公共工事を含め先行きに期待感を持ってない」(釧路・一般工事)「一部では受注好調で多忙となっているが、先行き見通しとしては、依然として不透明」(福井・金属加工機械)といった声や、「受注量が増加しないうえ、受注できても単価が安く採算割れの仕事が多いため、株価の上昇など景気のプラス要因が出てきているが、現場では景気回復の実感が全く無い」(館山・金属加工機械)と、依然厳しい状況を訴える声が寄せられている。また、「クリアランスセールは好調に推移するが、中元ギフトは不振」(京都・百貨店)「賞与の時期だったが家電等への影響はなく、依然、消費の改善はみられない」(赤穂・百貨店)「厚生年金(ボーナス分)の総報酬制導入に伴う可処分所得低下により、購買意欲が低下している」(大洲・百貨店)「7月は公務員のボーナス支給の後なので期待したが、全く予想はずれだった」(会津喜多方・理容)と、消費の低迷によるボーナス・中元商戦の不振を訴える声も多く寄せられている。

天候不順

全国的に、梅雨の長期化と冷夏の影響について、「天候不順により夏物商戦不振で、商品単価も依然、低価格のまま推移」(帯広・各種商品卸)「冷夏で厳しい状況が続いており、個人消費の低迷に拍車をかけている」(長岡・繊維品卸)「夏物は冷蔵庫、クーラー等の耐久消費財、衣料品とも売上が1割から2割減」(豊中・百貨店)「長梅雨のため、野菜等の不作が予想され、売上に悪影響が出てくると思われる」(いわき・百貨店)「天候不順で予約が無く、今月中は単価を下げて予約を入れざるを得ず、最悪の状況」(銚子・旅館)といったコメントが寄せられている。一方、一部からは「長梅雨のため、長靴等の雨具関連の売上が好調」(金沢・商店街)「長雨と低気温、台風の通過により基幹店の来客が前年割れとなったが、羽織ものを中心にジャケット類の動きが良く、全体的に単価を引き上げている」(大分・百貨店)といったコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード	
15年	5月	不況の常態化	SARS問題
	6月	不況の常態化	競争激化・単価下落
	7月	不況の常態化	天候不順

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは4カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「工事の発注量は少しずつ増えてきている」(一般工事)、「公共工事は受注悪化傾向だが、住宅建設は増加すると予想している」(一般工事)といった声があるものの、「大手企業の設備投資が少なく、全体の足を引っ張っており、大口工事が少ないため小口工事も値引き競争になりマージンが極端に少なくなっている」(電気工事)「設備投資、新規住宅の動きが悪く、リフォームが多くなっている」(建築工事)と、引き続き厳しい状況を訴える声が多い。また、「受注が減少する中で、鋼材が昨年より30~40%値上がりしており、収益が悪化している」(建築工事)と、仕入コストの上昇を訴える声も寄せられている。
製 造	業況、売上、採算D Iとも、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「SARSの制圧宣言により、一時停滞気味だった中国ビジネスが再び活発化し、繊維機械や工作機械等が依然として好調」(金属製品)との声がある一方、「5月から向こう半年間の受注・売上高は増加したが、その先行きは前年並みと予想している」(建設・鉱山機械)「受注数量は増えているが、コストダウンの影響により、利益率はかなり悪化している」(金物類)「単価値下げの要請が強く、大手主導となり、先行き不安が大きい」(自動車付属品)といった声や、「景気底打ちの声も聞かれるが、売上、採算とも前年に比べ悪化しており、業界全体で海外流出、人員整理が進む中、具体的な改善策が打ち出せない状況」(金属加工機械)と、厳しい状況を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは4カ月ぶり、売上、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「新車店舗、中古車展示場への店頭来店客数は前年比105%で、ボーナスが伸び悩んでいる割には個人消費は手堅い動きが感じられる」(自動車)との声はあるものの、「百貨店、量販店、専門店の全ての分野で売上減少し、業況は低迷している」(家具・建具等)「東証一部上場メーカーの倒産の影響で、組合員2社が民事再生法の適用を申請した」(各種商品)と、厳しい状況を訴える声や、「この梅雨の低気温で、野菜の品質が悪く、入荷量はあるが価格、消費とも低迷気味で昨年実績を下回って推移」(農畜産水産物)と、天候不順の影響を訴えるコメントも寄せられている。
小 売	業況D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「6月の終わりからバーゲンを始めたが、売上のピークが2~3日と短くなっており、また、複数購買が少なく単品で終わっている」(商店街)「中元ギフトは、法人関係で予想以上に苦戦している」(百貨店)「公務員のボーナスが出たが、なかなか消費にまわらない」(飲食料)「ボーナス支給額の減少などが消費者心理を冷やしている」(百貨店)といった、消費の低迷を訴える声や、「梅雨が長引き低気温のため、夏物衣料品・家電関連が不振」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況、採算D Iは2カ月ぶり、売上D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「食堂部門、宿泊部門は客数が増加したが、宴会部門は減少」(旅館)「可処分所得が減少しているため、消費者も余暇の過ごし方にシビアになっており、前年に比べ客足が伸びない」(喫茶店)「夏休みシーズンであるが、日帰り観光客が増加し、年々宿泊客が減少している」(旅館)と、消費の低迷を訴える声や、「一般貨物の荷動きは低調で好転の兆しはなく、荷主からの運賃削減要請も強く、経営悪化を訴える事業者が多い」(運輸)と、厳しい経営環境を訴える声や、「冷夏の影響からか観光客は一向に増加せず、売上・採算とも悪化しており、期待感の高い時期だけにショックが大きい」(旅館)と、天候の影響を訴える声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、関東、東海、四国を除く6ブロックでマイナス幅が縮小したため、全ブロック合計でも縮小した。

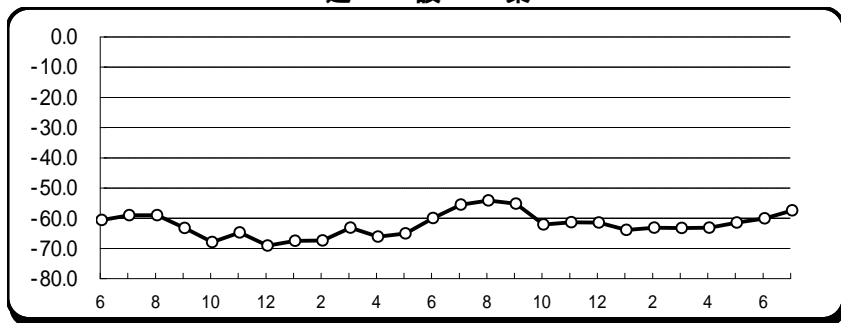
ブロック別の向こう3カ月(8月~10月)の業況の先行き見通しは、関東、東海、九州を除く6ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べ改善しており、全ブロック合計でも改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

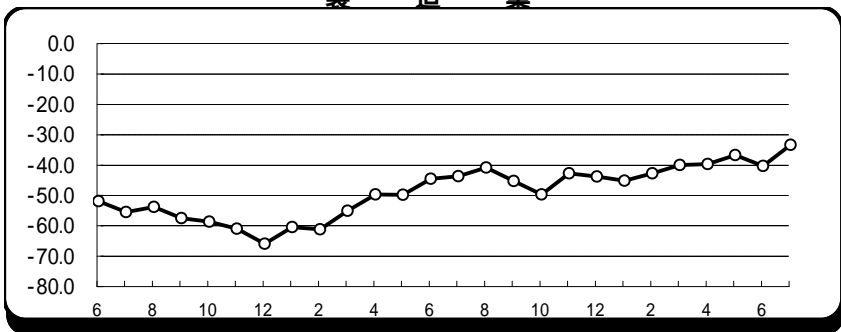
	15年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全 国	50.7	50.1	50.1	47.8	49.1	47.6	37.7 (38.2)
北海道	44.4	46.2	44.3	47.0	41.5	39.8	37.5 (39.4)
東 北	55.2	54.7	54.7	46.8	46.8	46.7	40.1 (44.1)
北陸信越	51.1	49.2	47.3	44.3	45.0	42.1	33.0 (35.9)
関 東	50.0	54.7	50.9	47.4	48.9	50.0	35.2 (29.9)
東 海	41.4	43.6	45.4	50.3	42.8	46.7	42.5 (40.9)
近 畿	53.7	49.6	50.9	49.6	55.6	48.3	36.3 (44.5)
中 国	52.7	48.7	56.8	45.1	47.2	43.8	38.2 (42.1)
四 国	58.2	56.6	45.9	51.8	52.3	58.5	42.5 (45.9)
九 州	50.3	43.3	51.1	47.9	56.3	50.0	40.8 (36.0)

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

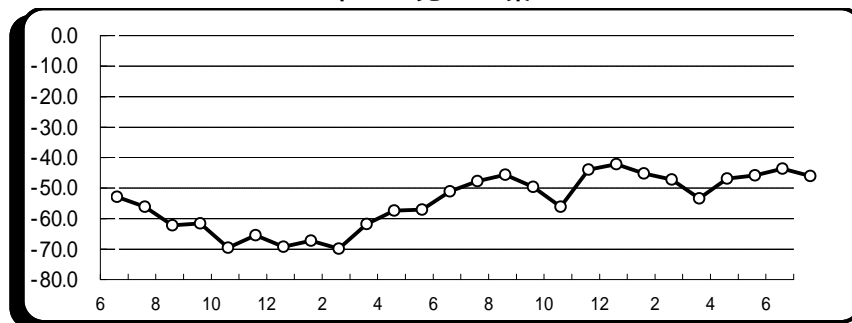
建設業



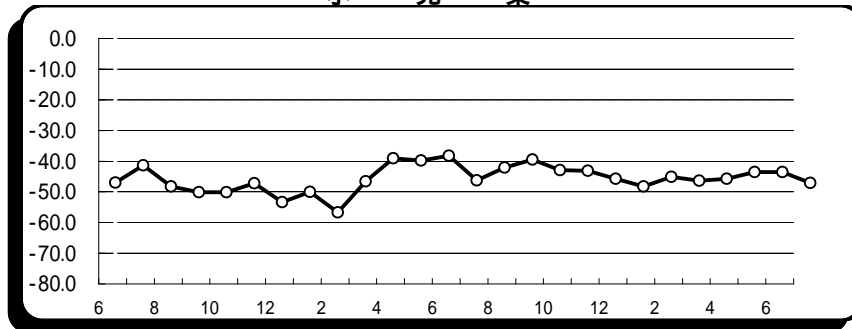
製造業



卸売業



小売業



サービス業

